

令和 6 年 6 月 27 日現在

機関番号：32696

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K00329

研究課題名（和文）中勘助の戦中・戦後創作に表れた超越的文化バイアスの研究 直筆資料の分析をもとに

研究課題名（英文）A Study on Naka Kansuke's Works during and Post World War Two.

研究代表者

大森 英実（木内英実）（Omori, Hidemi）

駒沢女子大学・私立大学の部局等・教授

研究者番号：70331501

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,400,000円

研究成果の概要（和文）：中勘助文学の戦前・戦中の教科書教材化が戦後の児童文学作品評価に繋がる流れが確認できた。児童文学作品の発想の源として1932年～63年連作『鳥の物語』、戦中・戦後雑誌発表の「鹿のお話」「兎のお話」「五色の鹿」はJataka典拠、「山がつとはしばみ」「涼しき蔭」は「マハーバーラタ」「ヒトパーデシヤ」典拠であることが判明した。The Giving Tree by Shel SilversteinやDie Konferenz der Tiere by E. Kastnerと共通する動物・樹木が人間を憐れみ命を与えるという作品におけるヒューマンイズムの原点は古代印度哲学にあり国際的視座の理由をなす。

研究成果の学術的意義や社会的意義

中勘助の戦中戦後の児童文学業績を、中勘助文学資料館所蔵の手書き資料及び旧蔵書から実証的に解明したことで、日本近現代文学研究の視座だけでなく印度學佛教學研究の視座から解明しその研究成果発表も日本近現代文学分野及び印度學佛教學研究分野に亘ったこと、児童文学という方法の優位性即ち戦中戦後の検閲制度のある出版統制下で体制批判につながる内容も「今昔物語集」等説話文学に依る古典的児童文学の形式を用いると思想性が目立たなかったこと、等長きに亘り「書きたいことを書く」という独自の姿勢を貫いた作家の創作の秘密に重層的に迫ることが出来た。戦争詩に繋がる戦中の創作姿勢を戦中の生活感に富む中勘助の作句から考察した。

研究成果の概要（英文）：The use of Naka-Kansuke literature as textbook material before and during World War II led to the evaluation of children's literature works after the war. As the source of inspiration for the children's literature works, "Tori no Monogatari (Tales of Birds)," a series of works published from 1932 to 1963, "Shika no Ohanashi (Tales of Deer)," "Usagi no Ohanashi (Tales of Rabbit)," and "Goshiki no Shika (The Deer of Five Colors)," published in magazines during and after World War II, were found to have been based on the Jataka texts, and "Yamagatsu to Hashibami" and "Suzushiki Kage (The Shade of Trees)" were found to be based on the Mahabharata and Hitopadesha. The origin of the humanism in his works, in which the animals and trees share compassion for humans and give them life, as in The Giving Tree by Shel Silverstein and Die Konferenz der Tiere by E. Kastner, is found in ancient Indian philosophy, and is the reason for the international perspective of this work.

研究分野：日本文学

キーワード：中勘助 教科書教材 児童文学 印度哲学 JATAKA 「マハーバーラタ」 国際性 第二次世界大戦

様式 C-19、F-19-1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

中勘助の第二次世界大戦中・戦後の矛盾をはらむ2系統の創作(日中戦争下の戦争詩と「鳥の物語」中の宗教的作品)を超越的文化バイアスの側面から考察し歴史的位置づけを明らかにすることを目的とした。

超越的文化バイアスとは、もともとは「日本文化の内なる国際性、それに付随する日本独自の文化受容と創造のバイアスを考察すること」(荒木浩、2014)を日本古典文学研究に応用したものである。

そこで本研究では上記2系統の中勘助文学作品に着目し、そこに内在する国際性、それに付随する中勘助独自の文化受容と創造のバイアスを直筆資料の分析をもとに考察すること、それに伴い「つましやかな世界を見つめる小説家」(山室静「第八章 昭和詩の展望」『昭和文学史下巻』1956、角川書店)という中勘助評価を昭和文学史上だけでなく国際的・学際的文脈の中で明らかにすることを具体的目的とした。

研究推進のアプローチ方法は以下の4点とした。(1)森鷗外等によるヨーロッパ言語に翻訳された印度学仏教学資料受容と中勘助のそれら受容との方法及び内容の比較。(2)静岡市所蔵中勘助関係資料内に存在する2系統の戦中・戦後創作の草稿・メモ・直筆原稿等の調査。(3)中勘助同時代の高村光太郎、尾崎喜八等の戦争詩調査。斎藤茂吉・吉井勇等国内外のヒューマンズム詩人による戦中・戦後の創作との比較。(4)国外での森鷗外・石川啄木・中勘助に関連したジャパノロジー研究調査。

2. 研究の目的

研究開始当初の目的に同じである。

中勘助の第二次世界大戦中・戦後の矛盾をはらむ2系統の創作(日中戦争下の戦争詩と「鳥の物語」中の宗教的作品)を超越的文化バイアスの側面から考察し歴史的位置づけを明らかにすることを目的とした。

超越的文化バイアスとは、もともとは「日本文化の内なる国際性、それに付随する日本独自の文化受容と創造のバイアスを考察すること」(荒木浩、2014)を日本古典文学研究に応用したものである。

そこで本研究では上記2系統の中勘助文学作品に着目し、そこに内在する国際性、それに付随する中勘助独自の文化受容と創造のバイアスを直筆資料の分析をもとに考察すること、それに伴い「つましやかな世界を見つめる小説家」(山室静「第八章 昭和詩の展望」『昭和文学史下巻』1956、角川書店)という中勘助評価を昭和文学史上だけでなく国際的・学際的文脈の中で明らかにすることを具体的目的とした。

3. 研究の方法

上記1.(1)(4)のアプローチの為2019年夏季オーストリアウィーン大学、ベルリン国立図書館東アジア部、フンボルト大学附属森鷗外記念館、ベルリン日独センター図書館訪問に伴い現地における日本近代文学研究者・日本学者との交流の結果に鑑みたこと、及び2020~2022年のコロナ禍において移動を伴う研究調査・研究発表が停滞し研究が進展しなかったこと、以上の2点から2020年、研究の方法、上記1で示した研究推進のアプローチ方法に若干の変更を余儀なくされた。

上記2で明文化した超越的文化バイアスに関連した中勘助の業績の「国際的・学際的文脈の中で」の位置付けに関し、比較対照する学問分野及び文学者を作品本位で定めることとした。

科研費基盤研究(C)(一般)16K02421「中勘助の直筆資料のデジタル化基盤整備に伴う創作方法の解明に関する研究」成果報告書として編集上梓した木内英実『静岡市所蔵中勘助旧蔵書目録』を活用し、県を越えての移動制限の方針下で2023年12月まで静岡市中勘助文学記念館での旧蔵書実物の閲覧は叶わなかったが、デジタル資料のインターネット利用を進展させた国立国会図書館所蔵の図書を通して中勘助の作品の国際性証左となる資料を受容した。

当初挙げた上記1.(1)~(4)のアプローチの内、(3)中勘助同時代の高村光太郎、尾崎喜八等の戦争詩調査。斎藤茂吉・吉井勇等国内外のヒューマンズム詩人による戦中・戦後の創作との比較。(4)国外での森鷗外・石川啄木・中勘助に関連したジャパノロジー研究調査を中止し、その代替として、中勘助の旧蔵書の内、文学書に次いで蔵書数が多い印度三部作創作の際に購入読解した印度学・仏教学資料及び中勘助自身も戦後その作品を受容し評価したドイツの詩人・作家 E. Kästner 等による児童文学作品を研究の国際的視座の一つとした。その理由として「鳥の物語」中の宗教的作品に表れる鳥による人間批判といった価値観の逆転が印度学・仏教学資料及び E. Kästner による児童文学作品に多く確認できること、中勘助の戦後の文学業績が児童文学作品であったこと、以上による。

矛盾をはらむ残りの系統の作品研究については、中勘助が戦中期に創作を開始した俳句に注目し「日矢」同人である新堀邦司氏のご協力の下、中勘助の当時の日常生活に密接した俳句の研究に取り組んだ。

4. 研究成果

【2019 年度】

[論文]

単著「教科書教材としての中勘助文学作品について」『(日本女子大学大学院の会) 会誌』<36号>2019、

【2020 年度】

[論文]

単著「戦前・戦中の教科書教材としての中勘助作品の位置づけ」『東京都市大学人間科学部紀要』<第 12 号>、2021、pp. 1-15

単著「日本近代文学に描かれた生と死～中勘助を中心に～」『日本文化研究』<第 14 号>、2021、pp. 85-99

[研究発表]

単独「日本近代文学に描かれた生と死～中勘助を中心に～」<駒沢女子大学日本文化研究所令和 2 年度研究会>2020 年 10 月 30 日、駒沢女子大学 (オンライン)

【2021 年度】

[論文]

単著「中勘助の戦後の児童文学作品『雷の太鼓とチャルメラ』及び『ひばりの話』に関する考察」『東京都市大学人間科学部紀要』<第 13 号>、2022、pp. 1-16

【2022 年度】

[論文]

単著「中勘助の静岡時代の俳句について—塩田章氏旧蔵中勘助直筆句稿『鶴』を中心に—」『東京都市大学人間科学部紀要』<14 号>、2023、pp. 1-38

単著「中勘助の仏教童話及び仏教童謡詩における Jataka 等聖典の受容」『印度學佛教學研究』<71 卷 2 号>、2023、pp. 646-652(査読有)

[研究発表]

単独「中勘助の仏教童話及び仏教童謡詩における Jataka 等聖典の受容」日本印度学仏教学会第 71 回学術大会、2022 年 9 月 3 日、東京外語大学 (オンライン)

単独「中勘助の戦中・戦後の詩業におけるインド叙事詩『マハーバーラタ』の影響—『涼しき蔭』及び『山がつとはしばみ』を中心に—」日本比較文学会第 60 回東京支部大会、2022 年 10 月 15 日、早稲田大学 (オンライン)

[公開講座 (一般向け)]

単独「中勘助の戦争児童文学」東京都市大学人間科学部・世田谷文学館友の会共催公開講座、2022 年 10 月 16 日、東京都市大学夢キャンパス

【2023 年度】

[論文]

単著「中勘助の仏教詩における聖典の受容—友松円諦との交流から最晩年の創作への展開—」『印度學佛教學研究』<72 卷第 2 号>、2024、pp. 737-744(査読有)

[研究発表]

単独「中勘助の仏教詩における聖典の受容—友松円諦との交流から最晩年の創作への展開—」日本印度学仏教学会第 72 回学術大会、2023 年 9 月 3 日、龍谷大学 (オンライン)

単独「中勘助による女性を描いた随筆作品に表れた作家意識について」昭和文学会第 73 回研究集会、2023 年 12 月 16 日、二松学舎大学

[公開講座 (一般向け)]

シンポジスト・企画・運営「中勘助文学シンポジウム 2023@信濃町」2023 年 12 月 2 日、信濃町公民館柏原支館

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 木内英実	4. 巻 72巻2号
2. 論文標題 中助助の仏教詩における聖典の受容 友松円諦との交流から最晩年の創作への展開	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 印度學佛教學研究	6. 最初と最後の頁 737,744
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 木内英実・新堀邦司	4. 巻 14
2. 論文標題 中助助の静岡時代の俳句について - 塩田章氏旧蔵中助助直筆句稿『鶴』を中心に -	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 東京都市大学人間科学部紀要	6. 最初と最後の頁 1,38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 木内英実	4. 巻 71巻2号
2. 論文標題 中助助の仏教童話及び仏教童謡詩におけるJataka等聖典の受容	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 印度學佛教學研究	6. 最初と最後の頁 646,652
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 木内英実	4. 巻 13
2. 論文標題 中助助の戦後の児童文学作品「雷の太鼓とチャルメラ」及び「ひばりの話」に関する考察	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東京都市大学人間科学部紀要	6. 最初と最後の頁 1,16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 木内英実	4. 巻 第14号
2. 論文標題 日本近代文学に描かれた生と死～中勘助を中心に～	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本文化研究	6. 最初と最後の頁 85,99
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木内英実	4. 巻 第12号
2. 論文標題 戦前・戦中の教科書教材としての中勘助作品の位置づけ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東京都市大学人間科学部紀要	6. 最初と最後の頁 1,15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 木内英実	4. 巻 36
2. 論文標題 教科書教材としての中勘助文学作品について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 (日本女子大学大学院の会)会誌	6. 最初と最後の頁 122,128
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件(うち招待講演 1件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 木内英実
2. 発表標題 中勘助の仏教詩における聖典の受容
3. 学会等名 日本印度学仏教学会第74回学術大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 木内英実
2. 発表標題 中勘助による女性を描いた随筆作品に表れた作家意識について
3. 学会等名 昭和文学会第73回研究集会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 木内英実
2. 発表標題 中勘助の仏教童話及び仏教童謡詩におけるJataka等聖典の受容
3. 学会等名 日本印度学仏教学会第73回学術大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 木内英実
2. 発表標題 中勘助の戦中・戦後の詩業におけるインド叙事詩『マハーバーラタ』の影響 - 『涼しき蔭』及び『山がつとはしほみ』を中心に -
3. 学会等名 日本比較文学会第60回東京支部大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 木内英実
2. 発表標題 日本近代文学に描かれた生と死～中勘助を中心に～
3. 学会等名 駒沢女子大学日本文化研究所令和2年度研究会（招待講演）
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

科研費を用いて一般市民対象に開催した公開講座並びにシンポジウムは以下の通りである。
単独「中勘助の戦争児童文学」東京都市大学・世田谷文学館友の会共済公開講座、2022年10月16日、東京都市大学夢キャンパス
シンポジスト・企画・運営「中勘助文学シンポジウム2023@信濃町」2023年12月2日、信濃町公民館柏原支館

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------